

中小企業の景気動向調査

第152回「中小企業の景気動向調査」をお届けいたします。

調査要項

| | |
|--------|---|
| 調査時点 | 平成24年6月上旬 |
| 調査対象期間 | 平成24年4月～6月実績 平成24年7月～9月見通し |
| 調査対象企業 | 当金庫お取引先1,830社(大阪府下ならびに尼崎市) |
| 回答企業数 | 1,285社 |
| 回答率 | 70.2% |
| 調査方法 | 調査票郵送及び聞きとり調査 |
| 分析方法 | アンケート調査による各質問項目で「増加」したとする企業数が全体に占める構成比と「減少」したとする企業数の構成比との差(DI)を中心にして分析を行いました。 |

アンケートの内訳

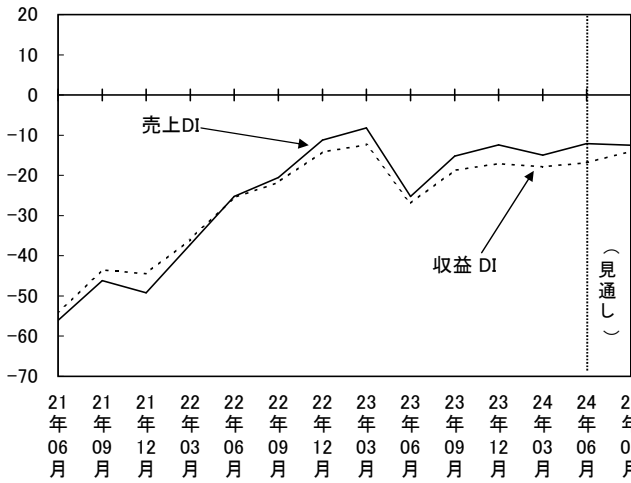
| 業種別 従業員別 | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | 飲食業 | 建設業 | サービス業 | 運輸業 | 不動産業 | 計 | 構成比 | 累計 構成比 |
|-------------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|------|--------|--------|-----------|
| 1～4人 | 62 | 46 | 117 | 53 | 45 | 66 | 2 | 48 | 439 | 34.2% | 34.2% |
| 5～10 | 108 | 56 | 26 | 18 | 81 | 45 | 14 | 15 | 363 | 28.2% | 62.4% |
| 11～20 | 96 | 20 | 14 | 7 | 39 | 25 | 22 | 5 | 228 | 17.7% | 80.2% |
| 21～30 | 39 | 9 | 6 | 6 | 14 | 9 | 10 | 1 | 94 | 7.3% | 87.5% |
| 31～50 | 39 | 5 | 5 | 5 | 4 | 6 | 10 | 5 | 79 | 6.1% | 93.6% |
| 51～100 | 13 | 6 | 6 | 3 | 4 | 8 | 6 | 0 | 46 | 3.6% | 97.2% |
| 101～ | 12 | 4 | 3 | 1 | 1 | 10 | 4 | 1 | 36 | 2.8% | 100.0% |
| 計 | 369 | 146 | 177 | 93 | 188 | 169 | 68 | 75 | 1,285 | 100.0% | |
| 構成比 | 28.7% | 11.4% | 13.8% | 7.2% | 14.6% | 13.2% | 5.3% | 5.8% | 100.0% | | |

総合

(1,285社)

追風少ない中小企業！ 追い討ちをかける計画停電！！

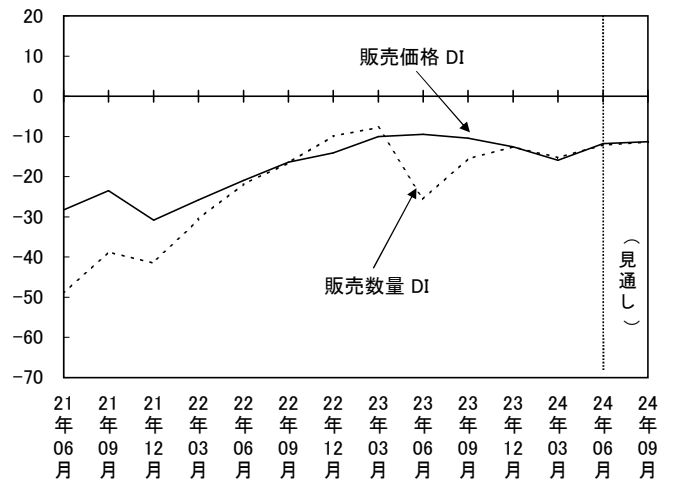
【売上受注・収益DIの推移】



◆追風少ない中小企業◆

売上DIはマイナス12.1（前回比+2.9ポイント）、収益DIはマイナス16.8（前回比+1.0ポイント）となり、売上DI・収益DIともに上昇しました。平成24年7-9月期は、売上DIで0.4ポイント下落し、収益DIで2.8ポイント上昇すると予想しています。大手企業では、エコカー補助金で自動車産業を中心に景況感の回復が見られましたが、関西では自動車産業の比率は低く恩恵は少なかったと思われます。関西では、大飯原発の再稼働で電力不足は幾分解消しましたが、引続き計画停電への対応に迫られており、計画停電の実施が、関西企業に大きな悪影響を及ぼすことが懸念されます。

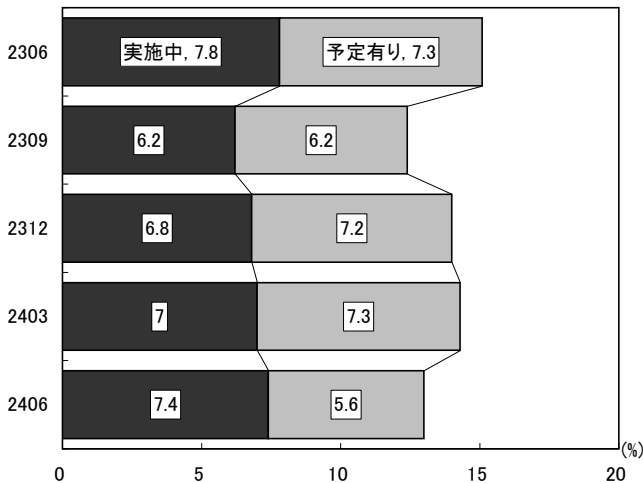
【販売価格・数量DIの推移】



◆計画停電の実施はあるのか？◆

販売価格DIはマイナス11.8（前回比+4.1ポイント）、販売数量DIはマイナス12.1（前回比+3.1ポイント）となり、販売価格・販売数量DIともに上昇しました。平成24年7-9月期は、販売価格DIが0.5ポイント、販売数量DIが0.7ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。激しい価格競争のなか、販売価格の上昇はほとんど見込めません。また、計画停電の実施が懸念される今夏、特に製造業や、飲食業では販売数量の減少が懸念されます。

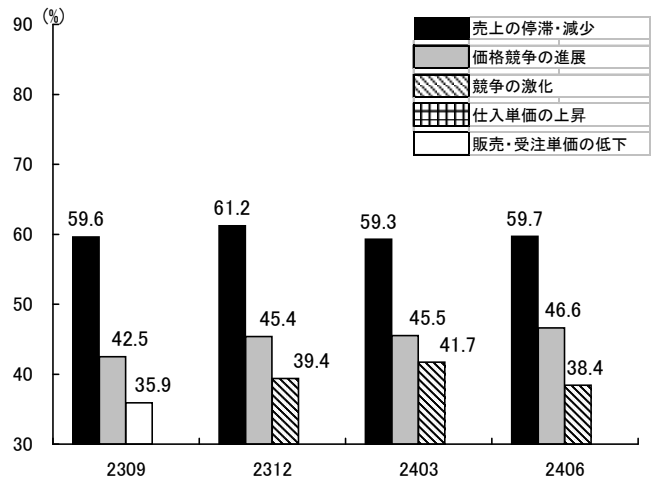
【設備投資】



◆踏切れない設備投資◆

「実施中」は7.4%（前回比+0.4ポイント）、「予定有り」は5.6%（前回比-1.7ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は13.0%です。24年6月期は、過去1年間で「予定有り」が最も落込みました。景気の回復が遅れる関西では、設備投資は更新が中心で、前向きな設備投資へはなかなか踏切れないのが現状と思われます。景気の見通しが立たない中、設備投資意欲が回復するのはもう少し先になると考えられます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆再び節約モードへ◆

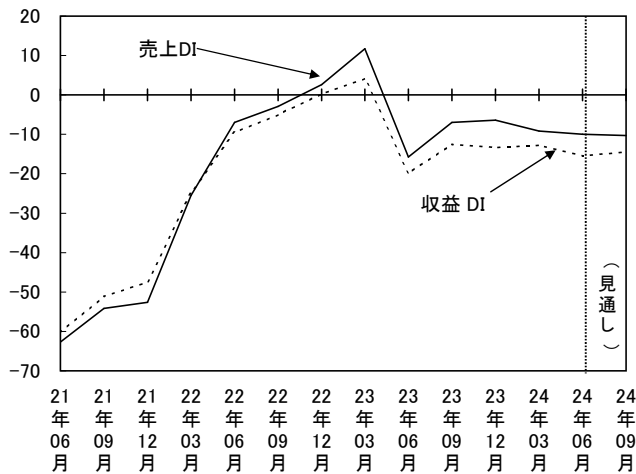
第一位は「売上の停滞・減少」が59.7%、第二位は「価格競争の進展」が46.6%、第三位は「競争の激化」が38.4%となりました。円高や欧州経済危機が再燃し、復興需要へ期待できない関西は、今夏、計画停電の実施が懸念されています。計画停電が実施されれば、「売上高の減少」や「停電時間内の営業の見合わせ」など、7割以上の企業に悪影響が及びます。また、ボーナス支給率の低下から、消費者が再び節約モードに入ることが予想され、景気の先行きに不透明感が漂っています。

(中小企業診断士：平山)

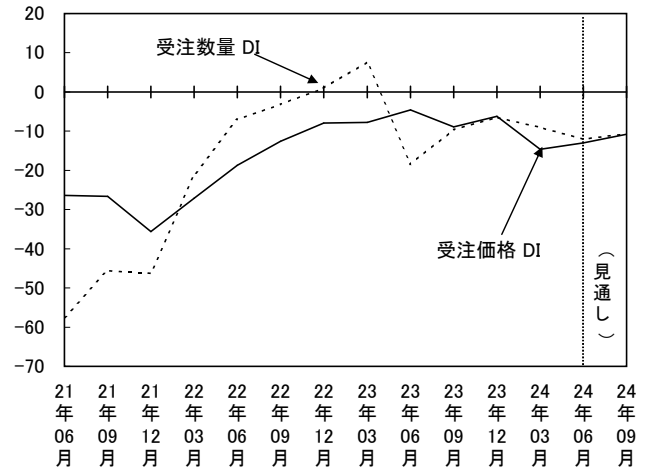
製造業 (369社)

追風吹かず！！計画停電の実施はあるのか？

【売上受注・収益DIの推移】



【受注価格・数量DIの推移】



◆売上・収益DIともに下落◆

売上DIはマイナス10.0（前回比-0.8ポイント）、収益DIはマイナス15.4（前回比-2.7ポイント）となり、売上DI・収益DIともに下落しました。平成24年7-9月期は、売上DIが0.3ポイント下落、収益DIは1.0ポイント上昇すると予想しています。

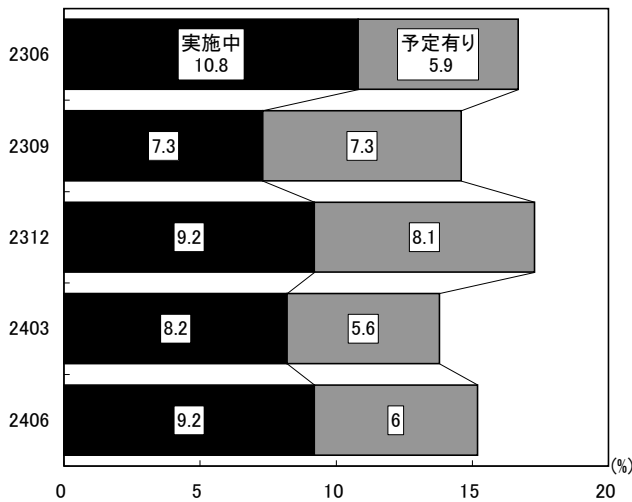
エコカー補助金の追風があり大手企業では景気が回復していますが、関西は他地域に比較して自動車産業の比率が低いとその恩恵も少なく、売上・収益DIともに低迷しています。今夏は、関西では節電への取組みと計画停電実施への対応が必要であり、他業種に比較して大きな影響を受ける製造業では、平成24年7-9月期の売上・収益DIの見通しは、慎重な見方をしています。

◆受注数量下落、伸びない数量◆

受注価格DIはマイナス13.0（前回比+1.6ポイント）、受注数量DIはマイナス12.0（前回比-3.0ポイント）となりました。平成24年7-9月期は、受注価格DIが2.2ポイント・受注数量DIは1.4ポイント上昇すると予想しています。コンピュータや半導体などの電子部品関連製造業では、受注数量の減少が目立っています。

平成24年7-9月期の見通しは、円高や原材料価格の高騰だけでなく、製造業では計画停電が実施されれば売上高へ大きな影響を与えることが予想され、慎重な見方をしています。

【設備投資】

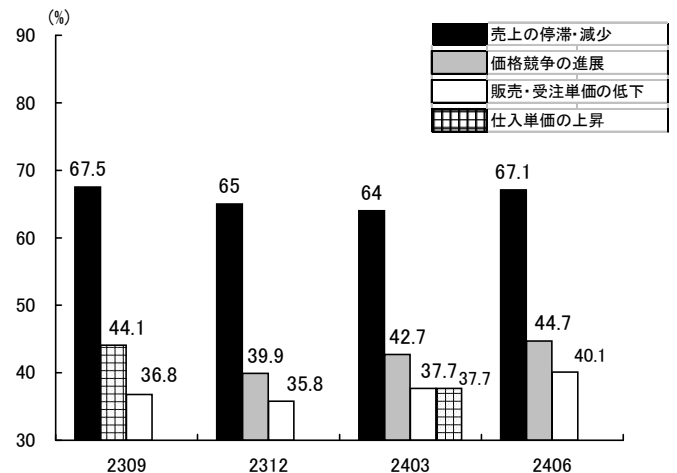


◆更新中心の設備投資◆

「実施中」が9.2%（前回比+1.0ポイント）で、「予定有り」は6.0%（前回比+0.4ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は15.2%です。

設備投資は、24年3月期に比較して、「実施中」「予定あり」とともに増加しました。電力不足に備え、太陽光パネルを設置する企業も一部には見られますが、設備投資は更新が中心で、新規に購入するなどの大掛かりな設備投資に踏切る企業は少ないのが現状です。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆懸念される計画停電の実施◆

第一位は「売上の停滞・減少」が67.1%、第二位「価格競争の進展」が44.7%、第三位「販売・受注単価の低下」が40.1%となりました。

小ロット受注が多く、売上高の確保が一層困難となります。為替は、依然として円高基調に推移し、原材料価格は長期的には上昇基調にあり、激しい価格競争と相まって、利益の確保が困難な状況です。

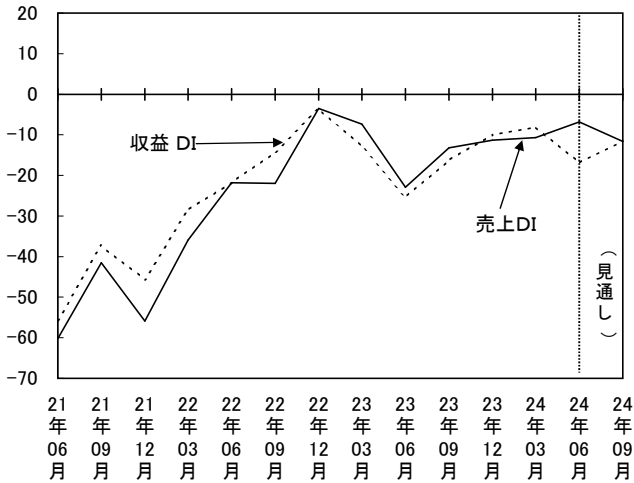
さらに、もし計画停電が実施されれば、大きな悪影響が懸念される製造業では、景気の先行きに慎重な見方をしている企業が多いと思われます。

(中小企業診断士：兵庫、稲津、)

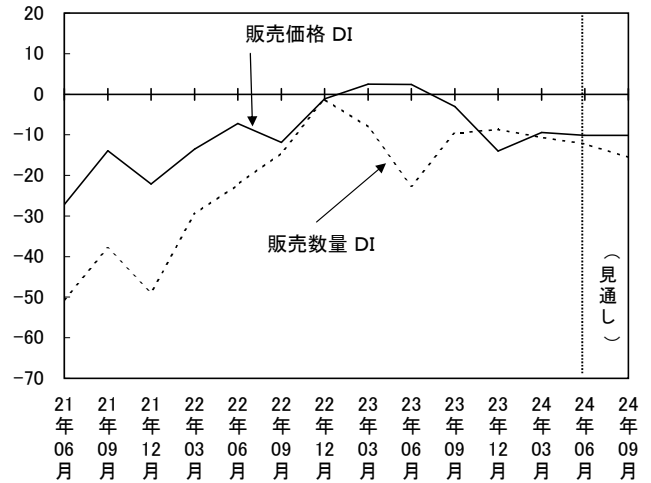
卸売業 (146社)

収益悪化！激しい価格競争と販売数量の下落！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆苦戦する収益◆

売上DIはマイナス6.8（前回比+3.9ポイント）、収益DIはマイナス16.9（前回比-8.8ポイント）となり、売上DIはやや上昇しましたが、収益DIは大きく下落しました。平成24年7-9月期は、売上DIが4.8ポイント下落、収益DIが5.4ポイント上昇すると予想しています。

震災後、ようやく個人消費は上向きましたが、価格競争は依然激しく、消費者の購入チャネルが多様化してネットで購入する消費者は増加しており、激しい価格競争から収益性が悪化しています。

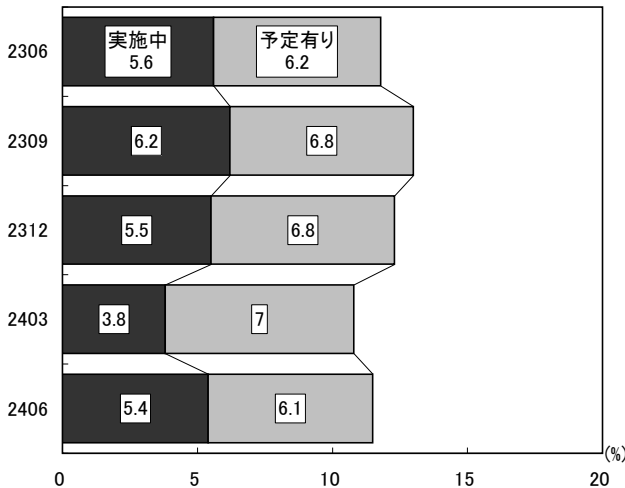
被災地から遠い関西では、復興需要関連の売上はほとんどなく、平成24年7-9月期の見通しは、慎重な見方をしています。

◆価格・数量ともに下落◆

販売価格DIはマイナス10.1（前回比-0.7ポイント）、販売数量DIはマイナス12.2（前回比-1.6ポイント）となりました。平成24年7-9月期は、販売価格DIが変わらず、販売数量DIが3.3ポイント下落すると予想しています。

衣料品関係では、天候不順から需要予測が難しい上に、短納期での対応が必要で、難しい経営判断が求められています。

【設備投資】

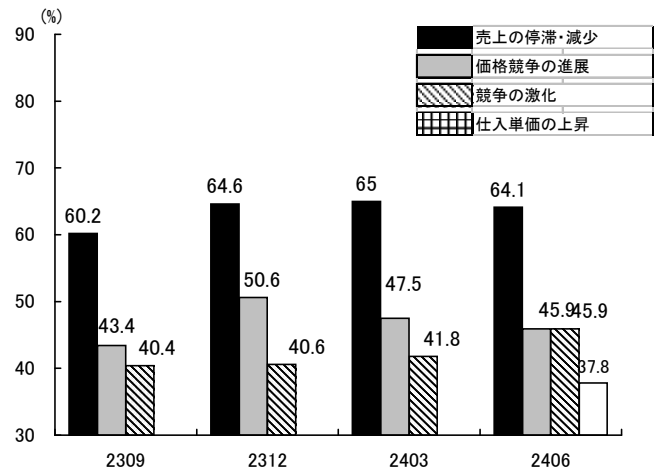


◆設備投資は低調推移◆

「実施中」が5.4%（前回比+1.6ポイント）、「予定有り」は6.1%（前回比-0.9ポイント）となり、「実施中」と「予定有り」の合計は11.5%です。

24年3月期に比較して、設備投資意欲はやや回復したものの、収益環境はいつそう厳しさを増し、当面設備投資は低調に推移すると思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆激しい価格競争、難しい収益の確保◆

第一位は「売上の停滞・減少」で64.1%、第二位は「価格競争の進展」と「競争の激化」でそれぞれ45.9%、第三位は「販売・受注単価の低下」で37.8%となりました。

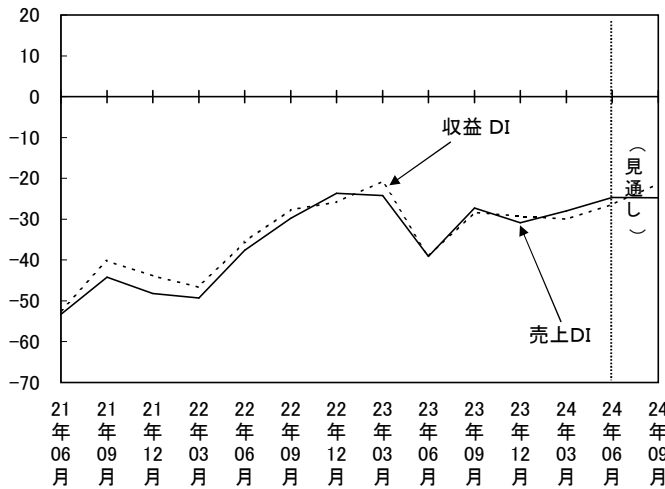
同業者間の価格競争が激しく、販売価格は低下して消耗戦の様相を呈しています。安い海外製品の攻勢もあり、販売価格・数量ともに厳しい状況が続いています。

(中小企業診断士：畑、小倉、真下)

小売業 (177社)

天候不順の悪影響！再び節約モード！？

【売上受注・収益DIの推移】



◆売上・収益DIともに上昇◆

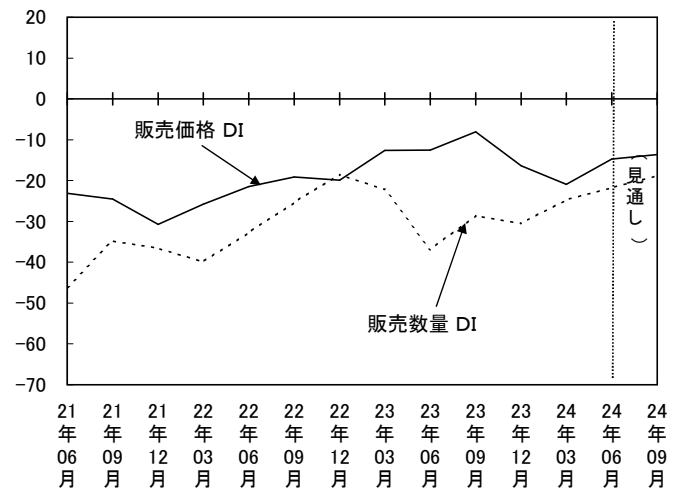
売上DIはマイナス24.7（前回比+3.3ポイント）、収益DIはマイナス26.3（前回比+3.6ポイント）となり、売上DI・収益DIともに向上しました。

平成24年7-9月期は、売上DIが0.1ポイント下落、収益DIが5.0ポイント上昇すると予想しています。

ネット販売を導入して、売上高を安定させる企業も出てきています。梅雨や台風による天候不順により、野菜価格は高騰し、夏向け衣料品販売は出足が低調なようです。

ボーナス商戦への期待は、ボーナス支給率の前年割れにより、あまり期待できません。また、消費税増税法案成立への動きから、消費者が再び節約モードに入ることが懸念されます。

【販売価格・数量DIの推移】

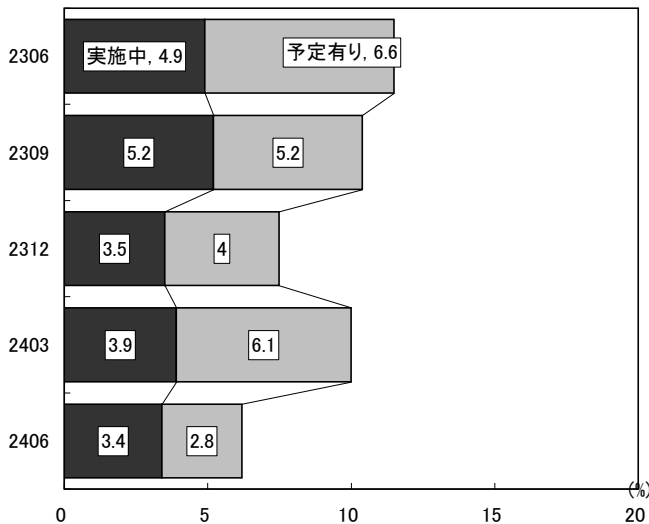


◆低空飛行の販売数量◆

販売価格DIはマイナス14.7（前回比+6.2ポイント）、販売数量DIはマイナス21.7（前回比+3.0ポイント）となり、販売価格DI・販売数量DIともに改善しました。平成24年7-9月期の見通しは、販売価格DIが1.1ポイント、販売数量DIが2.9ポイント上昇すると予想しています。

本格的な夏本番を前に、天候が安定し、夏物衣料や水着などの販売増加を見込む企業も一部にありますが、大型小売店との競合は依然激しく、販売数量の伸び悩みが懸念されます。

【設備投資】



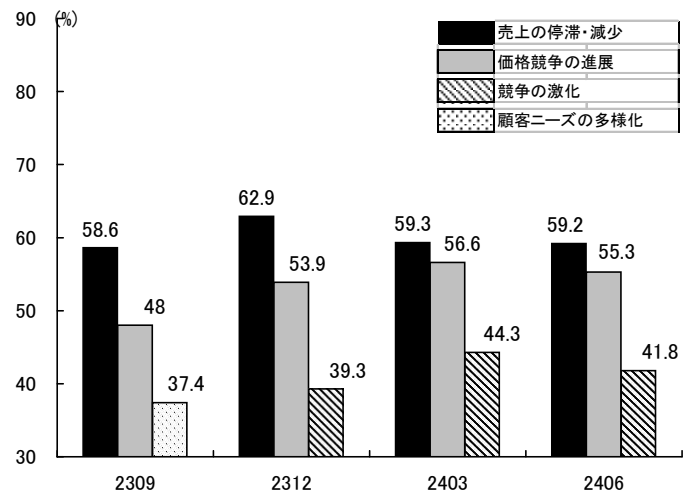
◆落ち込む設備投資◆

「実施中」は3.4%（前回比-0.5ポイント）、「予定有り」は2.8%（前回比-3.3ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は6.2%となりました。

24年6月気は、過去1年間で、最も設備投資意欲が落ち込みました。

消費者の節約志向など、今後苦戦が予想される小売業では、設備投資意欲は当分上向かないと思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆苦戦を強いられる小売業◆

第一位「売上の停滞・減少」が59.2%、第二位「価格競争の進展」が55.3%、第三位が「競争の激化」で41.8%となりました。

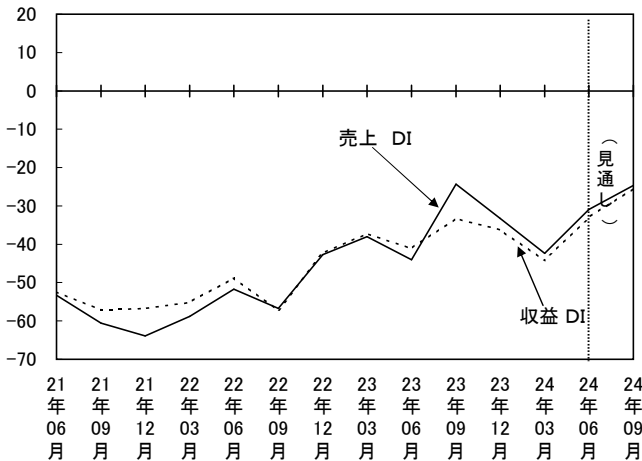
大手小売店をはじめ、同業他社との価格競争は常となり、消費者は「本当に必要なものしか買わない傾向」が強まり、今後苦戦が予想されます。

(中小企業診断士：澤田、金澤)

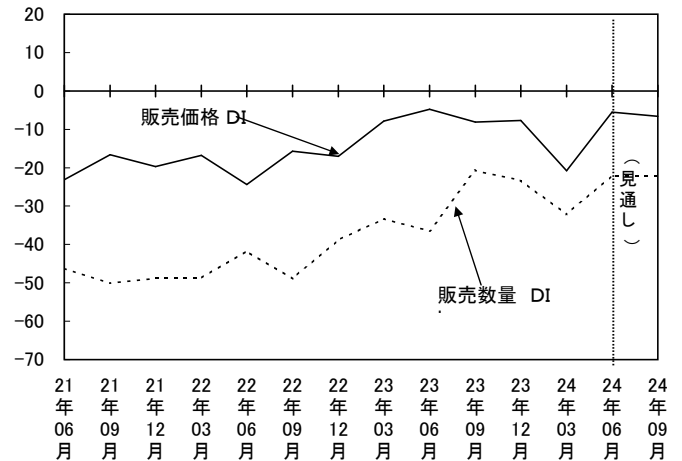
飲食業 (93社)

食材高騰！怖い計画停電の実施！！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆売上・収益DIともに大きく回復◆

売上DIがマイナス30.9（前回比+11.5ポイント）、収益DIがマイナス33.0（前回比+11.3ポイント）となり、売上・収益DIともに上昇しました。平成24年7-9月期は、売上DIが6.2ポイント、収益DIが7.5ポイント上昇すると予想しています。

新入学、新社会人、転勤などの異動とともに、歓送迎会での来店客が増加し、週末は予約で埋まる飲食店も一部ありますが、都市部から離れた飲食店や大手飲食店の周辺では、苦戦しています。

平成24年7-9月期は、売上・収益DIともに回復を予想していますが、計画停電の実施によるゴールデンタイムの来店客の減少が懸念されます。

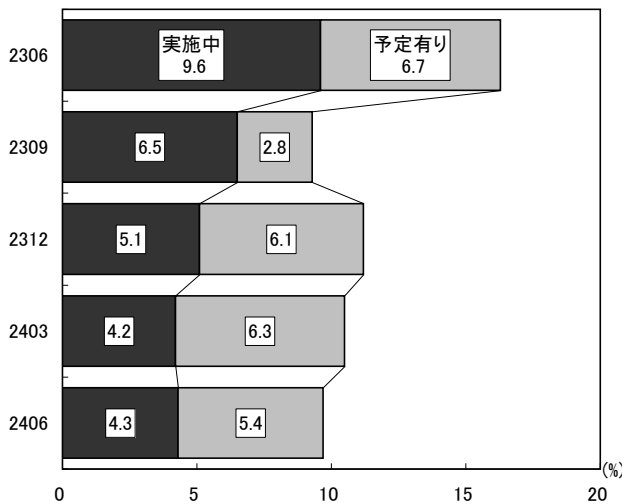
◆暑さとともに景況感回復◆

販売価格DIはマイナス5.5（前回比+15.3ポイント）、販売数量DIはマイナス22.0（前回比+10.2ポイント）となり、販売価格DI・販売数量DIともに大きく上昇しました。平成24年7-9月期は、販売価格DIが1.1ポイント下落し、販売数量DIは変わりません。

気温の上昇とともに、ビールなどの酒類を扱う飲食店は、来店客が増加しています。

しかし、これからお盆に入ることや、焼肉店では、生ギモの販売中止で売上高の減少が心配されます。平成24年7-9月期は、販売価格・数量DIともに横ばいに推移すると予想しています。

【設備投資】

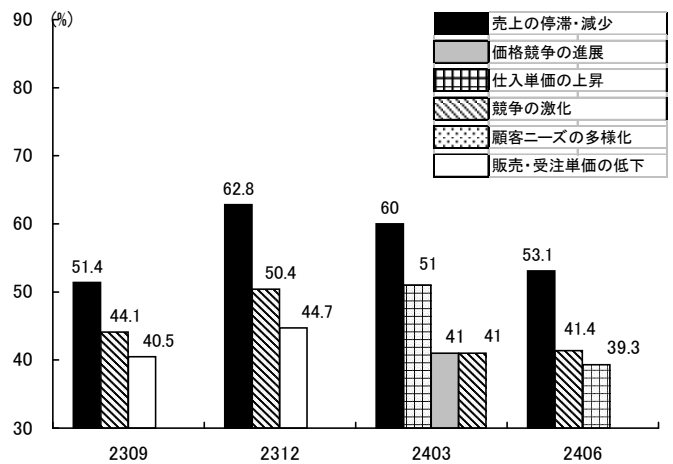


◆LED照明に変更する店もあり◆

「実施中」は4.3%（前回比+0.1ポイント）、「予定有り」は5.4%（前回比-0.9ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は9.7%です。

飲食店では、節電対策でLED照明に変更する店が見られます。しかし、店舗改装など大掛かりな設備投資には、なかなか踏み切れないのが現状です。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆怖い計画停電の実施◆

第一位「売上の停滞・減少」が53.1%、第二位「競争の激化」が41.4%、第三位「仕入れ単価の上昇」が39.3%となりました。

天候不順による野菜の仕入価格の高騰など、食材価格の変動への対応が難しく、利益の確保が困難な飲食店もあります。

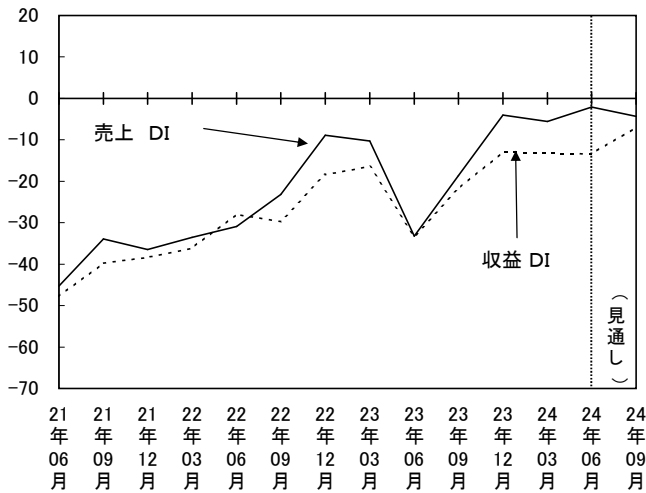
大手チェーン店との競争だけでも苦戦している上に、計画停電が実施されれば、食品の鮮度や来店客数に大きな悪影響が及ぶことが懸念されます。

(中小企業診断士：仲井、永井)

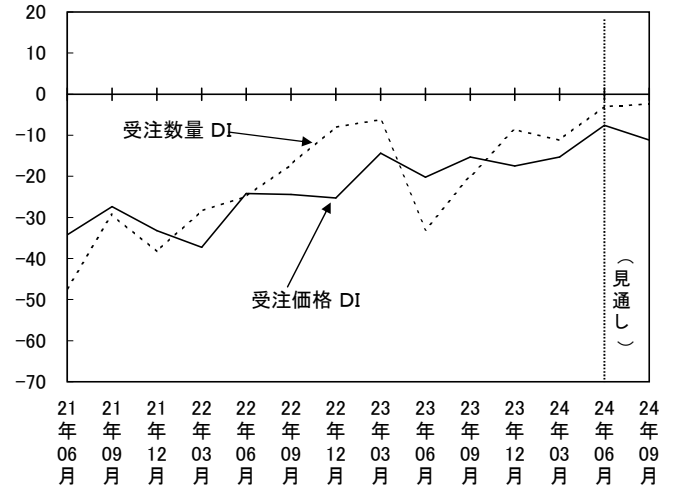
建設業 (188社)

困難な受注の確保！収益は横ばい！！

【売上受注・収益DIの推移】



【受注価格・数量DIの推移】



◆苦戦する収益DI◆

売上受注DIはマイナス2.1（前回比+3.5ポイント）、収益DIはマイナス13.4（前回比-0.2ポイント）となり、売上DIは上昇しましたが、収益DIは下落しました。平成24年7-9月期は、売上DIは2.2ポイント下落し、収益DIは6.4ポイント上昇すると予想しています。

年明けから公共工事の受注は、小口の受注が中心で厳しい状況にあります。大口受注は少なく、リフォームや小規模な建替え受注が大半で、収益の確保が困難な状況です。

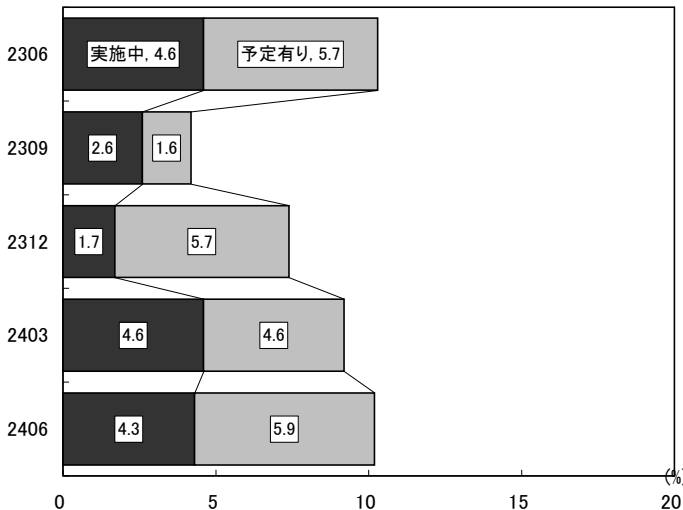
◆受注は小口中心◆

受注価格DIはマイナス7.6（前回比+7.7ポイント）、受注数量DIはマイナス3.0（前回比+8.2ポイント）となり、受注価格・数量DIともに改善しました。

平成24年7-9月期は、受注価格DIは3.6ポイント下落し、受注数量DIは0.6ポイント上昇すると予想しています。

被災地から遠い関西では、復興需要関連の受注はほとんど期待できず、引続きリフォーム中心の受注が続くと思われま

【設備投資】



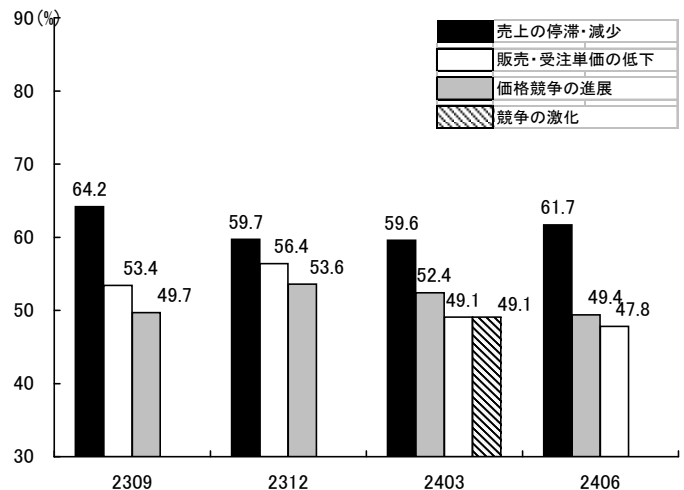
◆予定ありは増加したが・・・◆

「実施中」は4.3%（前回比-0.3ポイント）、「予定有り」は5.9%（前回比+1.3ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は10.2%です。

小口の受注が多い上に、収益の確保が困難となり、設備投資意欲は依然冷え込んでいます。

設備の購入価格が比較的高額な建設業では、設備投資の予定はするものの、なかなか購入に踏切れないのが現状と思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆困難な受注の確保◆

第一位「売上の停滞・減少」が61.7%、第二位「価格競争の進展」が49.4%、第三位「販売・受注単価の低下」が47.8%となりました。

受注の確保がますます困難で、大手ゼネコンからの受注が取れたとしても、収益は相当厳しい状況です。

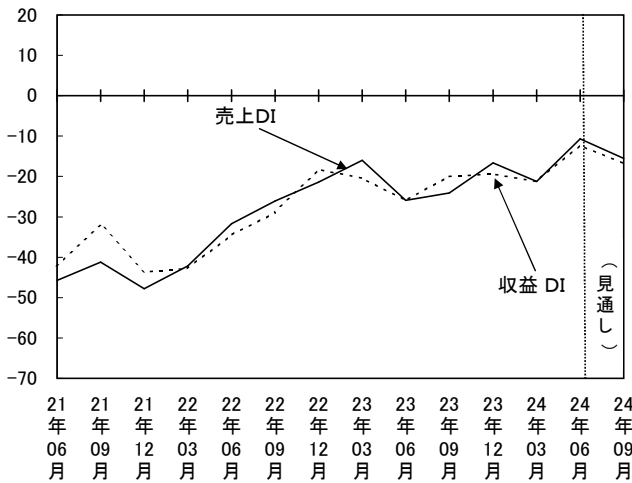
住宅エコポイントも終了し、反動による需要の落込みが懸念されます。また、関西は復興需要関連の受注はほとんど期待できず、東北方面へ進出する企業も出てきています。

(中小企業診断士：小林、井筒、宗和)

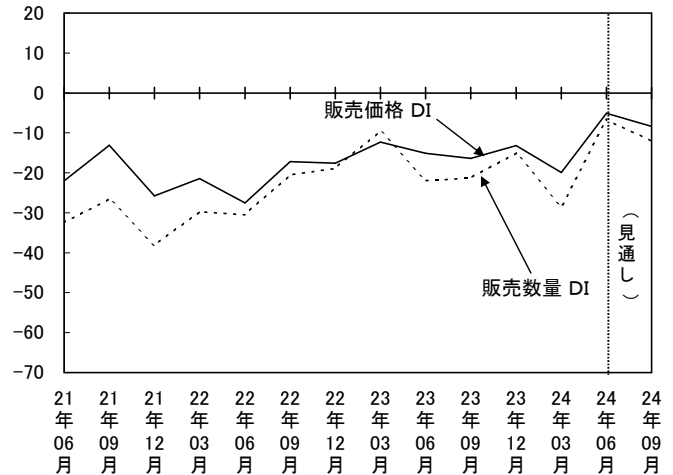
サービス業 (169社)

人材教育による差別化を目指す企業が増加！！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆売上・収益DIともに大きく上昇◆

売上DIはマイナス10.7（前回比+10.5ポイント）、収益DIはマイナス12.3（前回比+8.9ポイント）となり、売上DI・収益DIともに上昇しました。平成24年7-9月期は、売上DIが4.8ポイント、収益DIが4.4ポイントそれぞれ下落すると予想しています。

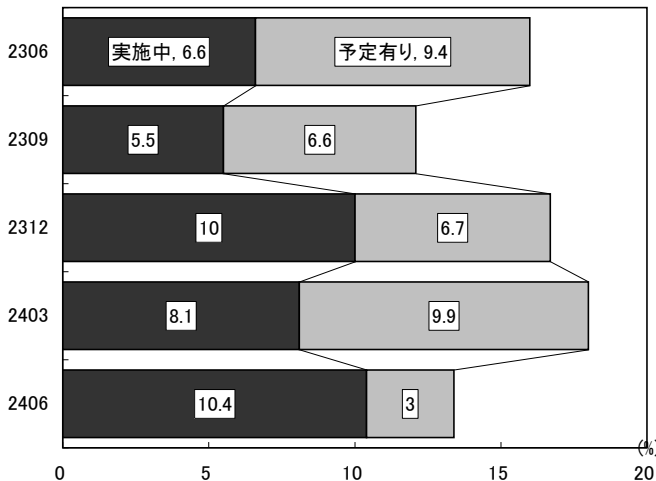
地元のクリーニング店では、これまでの代理店方式を変更し、自社店舗で共働き世帯をターゲットに、出店場所や営業時間も変更して取組んだ結果、業績が回復する企業があります。介護サービスや美容院、整骨院などでは、技術だけでなく、接客マナーの向上で競合店との差別化を図る動きが見られます。

◆販売数量大きく回復◆

販売価格DIはマイナス5.1（前回比+14.8ポイント）、販売数量DIはマイナス6.7（前回比+21.8ポイント）となりました。平成24年7-9月期は、販売価格DIが3.3ポイント・販売数量DIが5.3ポイントそれぞれ下落すると予想しています。

旅行業では、東京スカイツリー開業などの話題がある関東方面への申込みが多いようです。また、格安航空会社の就航も追風になっています。

【設備投資】

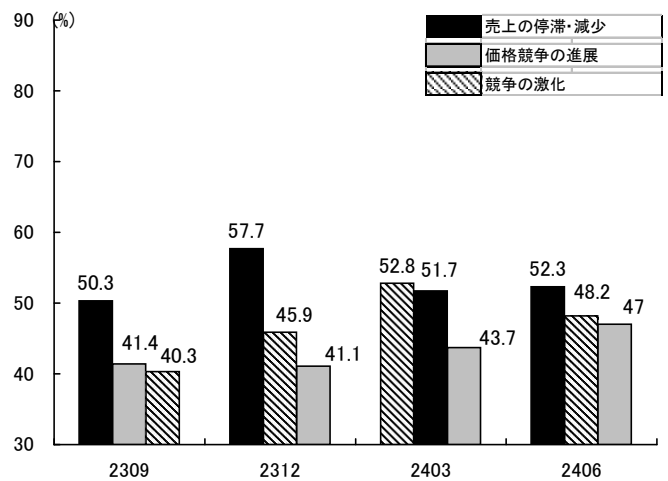


◆再び冷え込む設備投資◆

「実施中」が10.4%（前回比+2.3ポイント）、「予定有り」が3.0%（前回比-6.9ポイント）となり、「実施中」と「予定有り」の合計は13.4%となりました。

24年6月期は「実施中」が増加し、他業種に比較して設備投資を行う企業は増加しています。しかし、「予定有り」は減少しており、今後の設備投資の動向が注視されます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆人材教育に取り組む企業が増加◆

第一位は「売上の停滞・減少」が52.3%、第二位は「競争の激化」が48.2%、第三位は「価格競争の進展」が47.0%となりました。

依然として価格競争など同業他社との競争は激しく、人材教育による接客マナーの向上により、他店との差別化に取り組む企業が増加しています。

今後、ボーナス支給率の低下などから、消費者が再び節約志向になることが予想され、サービス業への支出は減少することが考えられます。

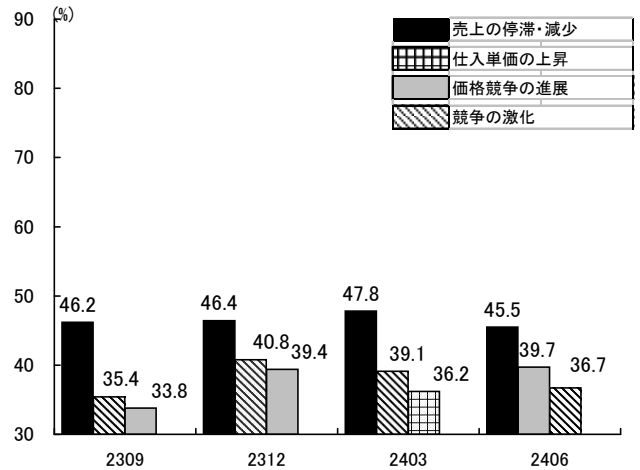
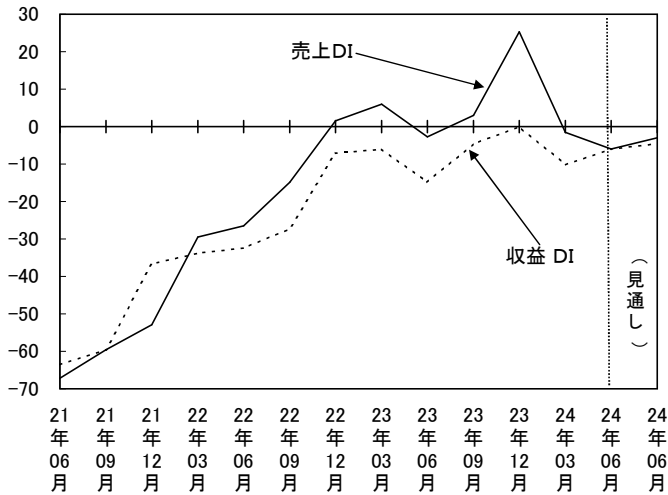
(中小企業診断士：澤田、竹並)

運輸業 (68社)

ガソリン価格は安定！輸送単価は下落！

【売上受注・収益DIの推移】

【経営上の問題点】(複数回答)



◆売上DI下落、収益DI上昇◆

売上受注DIがマイナス6.0（前回比-4.5ポイント）、収益DIがマイナス6.0（前回比+4.2ポイント）と売上DIは下落し、収益DIは上昇しました。平成24年7-9月期は、売上DIが3.0ポイント、収益DIが1.5ポイント上昇すると予想しています。ガソリン価格の高騰は落ち着きを取り戻し、収益は回復しました。しかし、物流量の減少や、輸送単価の下落により、24年7-9月期の見通しは慎重な見方をしています。

◆気になる輸送単価の下落◆

第一位「売上の停滞・減少」が45.5%、第二位は「価格競争の進展」が39.7%、第三位は「競争の激化」が36.7%と続きます。関西では、復興需要による物流量の増加はあまり期待できません。ガソリン価格は落ち着いたものの、価格競争など同業他社との競合で、輸送単価の下落による収益の悪化が懸念されます。

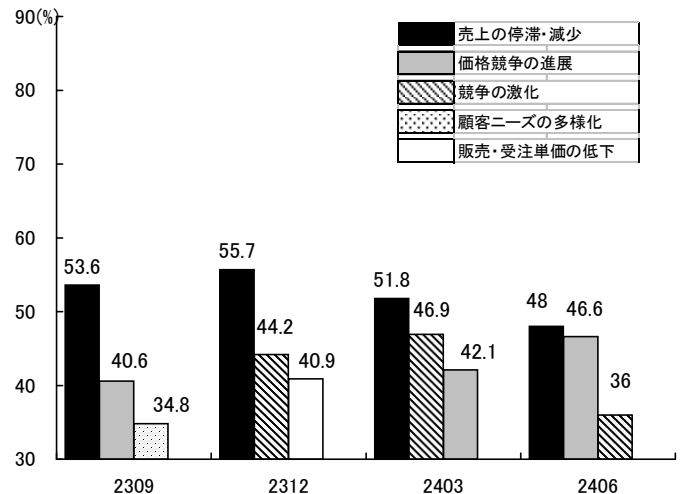
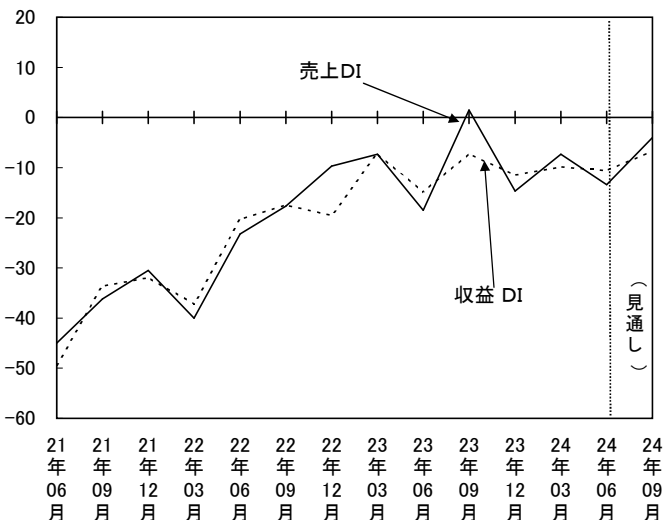
(中小企業診断士：小林、芝田、真下)

不動産業 (75社)

価格高騰、利回り低下！魅力が薄れる収益物件！

【売上受注・収益DIの推移】

【経営上の問題点】(複数回答)



◆収益物件価格が高騰◆

売上DIはマイナス13.4（前回比-6.1ポイント）、収益DIはマイナス10.6（前回比-0.8ポイント）となり、売上・収益DIともに下落しました。平成24年7-9月期は、売上DIが9.4ポイント、収益DIは3.9ポイント上昇すると予想しています。収益物件は、売買が一巡し、価格が上昇して運用利回りが10%を切る物件が多く、物件の魅力が薄れています。また、住宅エコポイントの終了も、今後逆風になることが予想されます。

◆安定収益の確保に向けて◆

第一位「売上の停滞・減少」が48.0%、第二位は「価格競争の進展」が46.6%、第三位は「競争の激化」が36.0%となりました。入居定着率が高い高齢者向けマンションの購入を検討する企業が増えています。収益物件の価格が上昇し、購入にはある程度の自己資金が必要となっています。

(中小企業診断士：仲井、小倉、宗和、永井)